

先輩の背中

母校六日町高校の入学ガイダンスの一環として行われた、荒川公平氏（日本ゼオン㈱特別経営技監・ゼオンテクノロジー㈱代表取締役、大木六出身、64歳）の講演会。この場にいる新一年生が「50年先、今日のことを覚えていていい内容ではないか？」と考えるほどすばらしい内容でした。私は、まだ幼さの残る彼らを受けとめられるだろうかと注視していました。しかし、のめり込むように聞き入る彼らに、心配など無用でした。荒川氏は、以前の勤務先富士フィルム㈱で、正面からしか見えなかつた液晶ディスプレイを斜めからも見えるようにする、視野角の広いフィルムを開発しました。日本ゼオン㈱での取組みは、世界を変える驚異の新素材といわれるカーボンナノチューブ。アルミニウムの半分の軽さ。鋼鉄の20倍の引張強度でいくら曲げても折れないしなやかさ。薬品や高熱に耐え、銀よりも電気を通し、銅の約20倍の熱伝導性。現在、取り組みの、市場で流通でき得る

安価化と量産化。それが実現すれば、集積回路の配線素材としてコンピュータを数百倍に高性能化できると期待されている、まさに国家プロジェクトの第一人者。イノベーション（技術革新）の視点から、たなごころ 掌を指すような「世の中はこうなっていく」という話に誰もがくぎ付けに。しかし、講演は研究の話が中心ではなく、テーマは「生き方」。何度も「リミッターをはずせ」と諭された。自分はこのぐらいの人間、と自己の力を制限するなど。「常識を疑え、思いこそ大事、なりたい自分を描け」「迷ったら前に出る、自分らしい人生をとことん進め」と締めくくられた。人は生き方を人からしか学べないと思います。昨年の成人式で私は新成人を前に「よき、超えたいと思う先輩の背中を一日も早く見つけること」が道しるべになるのでは？と語らせてもらった。私にもそういう背中がある。今回の講演は私にとつても母校後輩である彼らにも何事かの気付きを与えたでしょう。「超えたい」と発奮してほしい。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

シリーズ
第61回

スペイン王国 クリストバル カナルズ ディダク さん



私の国はこんなところ

私は、バルセロナ出身です。スペインの首都マドリードの次に大きな街です。公用語はスペイン語ですが、地方公用語にカタラン語もあります。気候は、日本のように四季があり、地中海に面する地域は温暖で過ごしやすく、北部のピレネー山脈は冬に雪が積もります。この風土が生み出す海の幸、山の幸をよく生かしているのがスペイン料理で、旅行者にも人気です。一般的なスペイン料理の「パエリア」はバレンシアが発祥の地で、カタラン語でフライパンを意味します。パエリアでわかるように、私たちの国でもお米が生産され、食っています。



スペイン王国

〔公用語〕	スペイン語
〔首都〕	マドリード
〔面積〕	504,782km ² (50位)
〔人口〕	46,524,943人 (29位)
〔GDP(PPP)〕	1兆3,968億ドル (11位)
〔通貨〕	ユーロ (EUR)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説 (PPP) により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

私が南魚沼にやってきたのは、1月の始めです。最初に見た景色は2メートルもの雪に閉ざされた街でした。豪雪地だとは知らず、野外での活動は挑戦でした。浦佐毘沙門堂禪押合大祭に参加することができました。この経験は、間違いなく一生の思い出です。春の桜を楽しむことなく帰国するのはとても残念ですし、周辺の山にも登りたかったです。また戻って来られる日を楽しみにしています。